第２回　新技術・新サービスに関する検討ワーキンググループ
議事概要

１．開催日時等

・開催日時：平成３０年９月５日（水）１４：００～１６：００
・開催場所：合同庁舎２号館地下１階警察庁第７・８会議室

・出席委員等（敬称略）
東京工業大学環境・社会理工学院土木・環境工学系教授　朝倉康夫
ITS Japan 専務理事　天野肇
筑波大学副学長・理事　稲垣敏之
法政大学大学院法務研究科教授　今井猛嘉
自動車ジャーナリスト　岩貞るみこ
東京大学生産技術研究所教授･モビリティ･イノベーション連携研究機構長　須田義大【欠席】
警察庁交通局交通企画課長
警察庁長官官房参事官（高度道路交通政策担当）
警察庁交通局交通企画課自動運転企画室長
警察庁交通局交通企画課理事官
警察庁交通局交通企画課課長補佐
警察庁交通局交通指導課課長補佐
警察庁交通局交通規制課課長補佐【代理出席】
警察庁交通局運転免許課課長補佐

・ゲストスピーカー
先進モビリティ株式会社代表取締役社長　青木啓二
一般社団法人日本自動車工業会大型車技術企画検討会主査　小川博

・オブザーバー
経済産業省製造産業局自動車課 ITS・自動走行推進室長
国土交通省道路局道路交通管理課高度道路交通システム（ITS）推進室長【代理出席】
国土交通省自動車局技術政策課自動運転戦略官

２．議事進行

２.１．開会

※事務局より開会を宣言。

２.２．討議

高速道路でのトラック隊列走行（電子牽引（仮称）に係る後続無人隊列走行）について討議した。各委員からの主な意見等については、次のとおり。

- 実用化段階の検討と実証実験の実現段階の検討を分けて考える方がよい。
- 実証実験に向けて、隊列の全長、先頭車両の運転者に係る義務、異常発生時の取扱い等を検討するには、これまでの実験内容・結果や技術レベル等を踏まえる必要がある。
- 隊列に容易に割り込まれないような措置を講ずる必要があるが、その具体的な方法はあらかじめ限定するのではなく、実証実験で様々な方法を試せるようにするのがよい。
- 隊列への割り込みを防止するなど安全を確保するためには、隊列走行中である旨を車体に表示するほか、各種媒体を活用して広報を行い、隊列走行の実験を行っている旨を周知することも必要であろう。
- 隊列への割り込みを許容する方が安全な場面もあり得るのではないか。
- 特に隊列が本線車道に合流する時に本線車道を走行する他のドライバーに対して、隊列が合流部に向け走行中であり注意してほしい旨を情報提供する場合には、あくまでも本線車道を走行する他の車両が優先であることから、隊列が優先であるかのような印象を与えない、協力を得やすい表現とすべきである。
- 被牽引車両の周囲の安全確認はモニターによる支援を受けるとされているが、ミラーとモニターとは雰囲気が異なる。例えば、雨天、夜などの場合にモニターで本当に分かるのか不安がある。
- システムの機能も踏まえる必要があるが、隊列走行の全長は長く、先頭車両の運転者は、後方の安全確認をはじめ、通常よりも重い役割を果たすことが求められることとなろう。
- 異常発生時等に被牽引車両を停止させた時には、先頭車両の運転者が、被牽引車も含めて安全確保措置を講ずる必要があるだろう。少なくとも実証実験では緊急の必要が生じた場合に、現場に急行できる体制を整備することが必要ではないか。
- 先頭車両の運転者には、しっかりした事前の教育や訓練が必要だろう。

２.３．閉会

（以上）